

平成30年6月7日
道路局 道路交通管理課

「きらきらの この道ずっと 守ろうよ」

～平成30年度「道路ふれあい月間」推進標語入選作品が決定しました～

平成30年度「道路ふれあい月間」推進標語の入選作品（最優秀賞3作品、優秀賞6作品の計9作品）が決定しました。

国土交通省では、毎年8月を「道路ふれあい月間」として、道路の愛護活動や道路の正しい利用の啓発等の各種活動を推進しており、この一環として、平成30年度「道路ふれあい月間」の推進標語を広く一般から募集した結果、全国から8,766作品の応募がありました。

これらの応募作品について、「平成30年度『道路ふれあい月間』推進標語審査懇談会」の三好礼子委員（エッセイスト、元国際ラリースト）、やすみりえ委員（川柳作家、文化庁文化審議会委員）、吉岡耀子委員（交通・環境ジャーナリスト）の3名に選考いただき、[小学生の部][中学生の部][一般の部]の部門毎に、最優秀賞1作品と優秀賞2作品を決定しました。

入選作品の応募者には、「道路ふれあい月間」期間中に国土交通省から、賞状及び楯を贈呈します。

入選作品の標語は、平成30年度「道路ふれあい月間」の推進のため、幅広く活用する予定です。

※委員名は五十音順

問い合わせ先

国土交通省道路局道路交通管理課 南雲、細村

電話 03-5253-8111（内線37-422、37-423）

03-5253-8482（夜間直通）

FAX 03-5253-1617

平成30年度「道路ふれあい月間」推進標語入選作品

◆最優秀賞（3作品）◆

【小学生の部】

「きらきらの この道ずっと 守ろうよ」

よしの 吉野 にちほ 日穂さん （宮崎県 宮崎市立恒久小学校）

【中学生の部】

「踏み出そう 夢を広げる 今日の道」

よこみぞ 横溝 ましほ 麻志穂さん （宮城県 仙台市立吉成中学校）

【一般の部】

「成長の 足跡残して 歩く道」

みやべ 宮邊 こうへい 幸平さん （大分県 日本文理大学付属高等学校）

◎最優秀賞3作品のうち、委員に特に好評だった「きらきらの この道ずっと 守ろうよ」を今年度の代表標語とします。

◆優秀賞（6作品）◆

【小学生の部】

「じこなしの わたしのまちの つうがくろ」

たけみち 竹道 れな 怜菜さん （埼玉県 川口市立十二月田小学校）

「道路はね みんなをおんぶ ありがとう」

あずまね 東根 みずき 瑞紀さん （岩手県 盛岡市立城南小学校）

【中学生の部】

「あふれ出る 希望の一步 この道で」

ながとも 永友 かりん 佳凜さん （東京都 江東区立第二亀戸中学校）

「たくさんの 未来を示す 道しるべ」

おぜき 尾関 ぜん 禅さん （岐阜県 瑞浪市立日吉中学校）

【一般の部】

「災害に 負けない町を 道路から」

さとう 佐藤 たかき 隆貴さん （福島県 南相馬市）

「パレードも 祭り神輿も この道路」

おばた 小幡 ゆみこ 由美子さん （群馬県 甘楽郡甘楽町）

【各委員からの総合選評】

《三好委員》



選ばれたどの標語も元気かつ慈しむ心にあふれていて、素晴らしいと思います。

小学生は道への気持ち（愛情）と目線の近さ。自由で道への感謝がストレート。中学生は、夢と希望と未来、これからの人生につながっていくものが多いですが、どれも軽快で嬉しくなります。同じ単語を使っても、これだけいろいろな雰囲気になるんだなと改めて思いました。一般は多種多様。クローバー、パレードや神輿、バトンなど、楽しくて新しい単語も多かったですね。「災害」のテーマは、個人的に絶対に入れたかったのですが、よいものが選ばれました。それにしても道と人が近くなれる標語たちは夜空の星みたい。たくさんの応募、ありがとうございました。

《やすみ委員》



今年度も沢山のご応募をいただきました。それは、標語を作る楽しさはもちろん、道路ふれあい月間の意義にご賛同くださっている皆様のお気持ちの表れだと受け止めながらの選考となりました。

川柳と違い、標語は文字数の決まりがある訳ではありませんが、やはり言葉のリズムやテンポの良い作品が入賞に入ったと感じます。心地よく響く標語は、各地で活用され、さらに道路ふれあいの輪を広げていってくれる事と思います。

《吉岡委員》



今年も、小学生からシニアまでの幅広い年齢が「道」について考え、数多くの言葉を残してくれました。道と自分を重ねてみる機会には他にはあまりないと思いますが、そんな貴重な体験からできた作品からは生活実感が浮かび上がってきます。

とくに小学生、中学生、高校と成長段階を追って見るのは、親心さながら、ハラハラしたり応援したりの選定作業でした。そしてシニアの作品にはさすがどっしりした力があることを感じました。

【各委員から最優秀賞作品へのコメント】

小学生の部 「きらきらの この道ずっと 守ろうよ」

三好委員 「きらきら」という言葉がとても生きています。「守ろうよ」で、さらに優しい気持ちになれます。一瞬で光景が浮かび、作者の笑顔の絶えない生活も見えるよう。道と人と自然が輝いていますね。ありそうでなかった「きらきら標語」、大好きです。

やすみ委員 小学生部門は素直な言葉で作られた標語が多く、とくに低学年の作品は可愛らしい言葉遣いが印象的です。最優秀の「きらきらの～」という表現もまさしくそのようなテイストです。この標語を目にしたら、きっと誰もが明るい気持ちになれることでしょう。「守ろうよ」という呼びかける言葉も、この標語全体をテンポよく仕上げる効果につながっていると感じます。

吉岡委員 きらきらするものなあと、と子供に聞いてみたい気がします。星、水、葉っぱ、お姫様ドレス・・・、そして道路！アスファルトが光るとか雨にライトが映るとか、それとは少し違う、キラキラは何かとてもいいこと、そして守りたいもの。そんな子供のダイレクトな思いがリズムよくまとまった作品で、大人も口ずさみたくくなります。

中学生の部 「踏み出そう 夢を広げる 今日の道」

三好委員 「踏み出そう」は、元気な呼びかけ。「夢を広げる」の「を」が、「が」でないことで、さらに自発的な感じに。「今日の道」で、毎日を大切に作る気持ちが伝わり、ほんとうに元気がでてきます。毎日口にして家を出たら、1日いいことありそう。

やすみ委員 中学生部門は、未来への想いをしたためた内容を多く見受けます。ちょうど自分自身の進路やものごとを考える道筋に対して興味が深くなる年頃だからなのでしょう。そうした、心の奥から湧き出た言葉には純粹さが漂い、標語としてもメッセージ性が高いものとなりますね。最優秀賞の「踏み出そう～」は、前向きさが前面に感じられる作品です。若い世代を中心に、多くの人から共感を得ることの出来る内容がいいですね。

吉岡委員 踏み出す、ひろげるという能動的な言葉に引き込まれました。中学生の意気込みが感じられます。あるいは、ためらいをふっきってのスタートかもしれません。夢と現実を見つめた後のその一歩を、道が応援してくれることでしょう。

一般の部 「成長の 足跡残して 歩く道」

三好委員 静かなれど力強く、一步一步進むひたむきさが感じられました。一番変化のある年代。進んで、悩んで立ち止まり、また進む。進めることの喜びや困む人々の温かさも感じられます。何だか道も誇らしげ。年齢に関係なく、そうありがたいものですね。

やすみ委員 一般の部は、幅広い目線で作られた標語にたくさん出会うことができました。高校生からシニア世代まで、言葉選びひとつにもさまざまな感性を感じることもできました。最終的には、地域やコミュニケーション、生活の様子、そういったものが背景にしっかり見えるものが印象に残りましたね。最優秀賞の「成長の～」は作者が高校生ということもあり、自分自身の姿なのでしょう。この作品から、あれこれとイメージを膨らませてみたくなりました。

吉岡委員 17才、高校生の作品です。大人になってきた自分、あるいは周りの友人たちの実感が伝わる作品で、今まで過ごした日々の重みも感じられます。一般の部ではシニアの活躍も目立ち、「災害に負けない町を道路から」「パレードも祭り神輿もこの道路」の優秀2作品は61才、60才の作。どちらも道路そのものへの期待がストレートに感じられます。